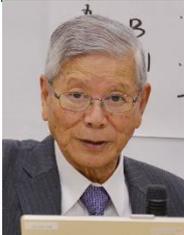


月例会ダイジェスト

平成 **30** 年度

新年会  岸信夫会長代行	新年会  半田晴久理事長	2月  高橋利行先生	3月  新保史生先生
4月  今井 澁先生	5月  加瀬みき先生	6月  小谷 誠先生	7月  川埜周先生
9月  茨木秀行先生	10月  品川高浩先生	11月  橋本久義先生	12月  井沢元彦先生

※8月は、月例会お休みです。

発行 時代を刷新する会

お祝い

お届け台紙名『孔雀』

東京都千代田区永田町 二一九一六
十全ビル六〇六公益財団法人 協和協会
代表理事 清原 淳平 様公益財団法人「協和協会」「時代を刷新する会」共催の
新春懇親会の開催、心よりお慶び申し上げます。両団体とも私の祖父・岸信介が創設した会であり、まず長年に
わたり、精力的に活動されている皆様に敬意を表するとともに、
衷心より感謝申し上げます。新春を迎え、総理大臣として改めて重い責任を胸に刻み、
皆様のご期待に沿うべく全力を傾注する所存です。内政・外交とも課題は山積しておりますが、果敢に挑戦し、
実績を積み上げていきたいと考えております。今後とも会員の皆様からの一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう
お願い申し上げますとともに、本日お集りの皆様のご健勝と
祈念いたします。

平成三十年 一月十五日

内閣総理大臣 安倍 晋三

▲ 安倍晋三総理よりの祝辞は、開会冒頭、壇上にて、清原淳平専務理事が代読いたしました。

岸 信夫 会長代行

衆議院議員

(代読)

明けましておめでとうございます。

由緒ある『公益財団法人協和協会』と、『時代を刷新する会』共催の新春懇親会の開催、誠に心からお慶び申し上げます。

本年も、皆さまにお目にかかるのを楽しみにしておりましたが、地元の行事のため今年は出席できずに申し訳ございません。何卒、御理解賜りますよう、よろしく御願い申し上げます。

また、昨年の9月28日の月例講話会に出席し、時局について御講話をさせていただく予定でございましたところ、御承知のようにこの日、急遽、衆議院解散となりました。なんとか、月例会の会場に駆けつけて十五分程の短い時間になりましたが、お話をさせていただきました。

その折、御出席の皆さまには、清原専務の音頭で、『エイエイ、オー』のかけ声で、私を、送り出して下さり、皆さまの気力や、あたたかい御声援をいただき、大変感謝いたしております。選挙となると、昔の戦(いくさ)と同様、

常に厳しいものですが、地元の支援者の方々が総力を挙げて下さり、また、東京の皆さま方の気力もいただきましたので、10月22日投票日の夜のニュースで、はやばやと当確が報道され、最終的には11万3000票を越す票を戴くことができました。以上、御報告を申し上げ、「協和協会」「時代を刷新する会」の皆様方に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、そこで、本年の政治・政策であります。北朝鮮や、韓国の文在寅政権の動き、さらには、アメリカ、中国、ロシアがどう動くのか、わが国を取り巻く国際情勢が極めてむずかしい年、と考えられ、安倍総理の外交力が大切な時と思われれます。また、国内にも課題が山積しているため、私も、全力を挙げて、総理を支えて行く決意であります。

どうか、皆さまにも、安倍政権に一層の御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。最後になりましたが、『公益財団法人協和協会』、そして『時代を刷新する会』の会員の皆さまの、御健勝・御隆昌を、心から祈念して、私の年頭御挨拶とさせていただきます。

両団体会長・衆議院議員
岸 信夫

▲ 岸信夫先生は、役職を歴任されているので、正月は地元優先せざるを得ず、やむなくご欠席。永瀬祐見子秘書に代読していただいた。



半田晴久 理事長

私がスポンサーをしているサッカーチームの選手やゴルファー、それから予備校の生徒などにいつも話しているのが、「大砲の理論」です。これは、志は常に高く持て、ということ。大砲は、重力や空気抵抗によつて的の下に当たる。何かを成し遂げようと思ったら、それよりも高い志を掲げなければ達成することはできません。何かの分野で一流の成績を残した人物は、心技体を超えて、志を人より高く持って、それを常に公言しています。志を高く持てば、運や能

力を引き寄せることができる。心技体はその後についてくるもの。そして、自分の周囲で考えうる最高のライバルを見つけ、「負けてたまるか」という気力を持つことです。「ゆとり教育」では、学習意欲が下がってしまう。小さいころから高い志を持たなければ、一流にはなれませんし、年をとっても、何歳になってもそれを持ち続けることが大事です。

もう一つが、松下幸之助の「情熱の定義」。能力が同じなら、情熱が一番ある人間に仕事を任せるべきだ。経営者は、部下の10倍、100倍の情熱を持たなければ、部下に伝わりません。そして、あらゆる場所、機会において、言い続けること。これが情熱です。

人間は志す以上のものにはなれません。志には年齢・性別、関係ありません。今後も私は、創立者・岸信介元総理の志を継いで、協和協会・時代を刷新する会を支えていく所存です。どうか皆様も、志を高く持って、今年1年も協和協会、時代を刷新する会の活動に取り組んでいただきたいと思います。(拍手)



高橋利行 先生

政治評論家、元読売新聞
論説委員・編集局次長・
新聞監査委員長

アメリカで大統領を辞めさせる方法は、2つある。①弾劾(憲法第2条4節)と②罷免(憲法修正第25条4節)である。これまでの歴史では両方ともまだ例がない。

①弾劾の具体的な手続きとしては、まず「弾劾裁判にかけること」を下院で可決(過半数)し、上院による弾劾裁判に持ち込まれる。上院では、出席議員の3分の2の賛成によって有罪となり、大統領は、罷免される。規定ではこのと

おりなのだが、この手続きには、時間がかかる。そのため、その間に4年の任期が終わってしまうだろうと推測されている。

②の罷免ならば、可能性がある。副大統領及び行政各部の長官の過半数が、「大統領がその職務上の権限と義務を遂行することができない」と申し立てれば、副大統領は直ちに大統領代理として大統領職の権限と義務を遂行することができるのだ。いわば、副大統領によるクーデターである。

もし、副大統領のペンスが大統領になった場合、どうなるだろうか？ ペンスは、かなり保守的な人物ではあるが、トランプより穏健であり、予測可能な人物だ。また、ペンスは、もともとインディアナ州知事で、そこにはトヨタの工場があるため、日本との関係は、以前より良好である。

経済はまちがいなくペンスになった方がよくなる。



新保史生先生

慶應義塾大学
総合政策学部教授

あらゆる場面でAI・ロボットが活用される社会が目前に迫っている。このため法整備が急がれるところだ。まず、国際的にルールをつくって、それに則った法律を国内で整備していくのがいい。そうしないと、日本だけがまた「ガラパゴス」と言われる偏った技術開発を続けてしまう可能性があるからだ。

産業用ロボットの出荷額・稼働台数において、日本はずっと1位であった(現在は中国が1位)。

その部品である、ロボット向け精密減速機、サーボモーター、力覚センサー等の世界シェアはいまも9割を誇っている。この分野において、「技術で勝って、ビジネスで負ける」ということは避けたい。たとえば、アップル社のiPhoneの製品の中身は、日本の部品でいっぱいなのに、利益はアップル社が独り占めしている。今後発展していく、生活支援型ロボットの分野で、日本はこの轍を踏むべきではない。

AIの未来には、大きく分けて2つのシナリオがある。人間は働かず、AI・ロボットが働くという社会。この場合、無条件で毎月一定のカネを国民に直接配る「ベーシックインカム」の導入も検討する必要があるだろう。そしてもう一つは、ジョージ・オーウェルが小説『1984年』で書いたような未来である。AIによって、人間が監視される社会だ。



今井 澂先生

国際エコノミスト、古くから日本はじめ国際経済の分析で知られる

トランプ政権について、閣僚25人のうち支持者が過半数に満たなかったが、閣僚を入れ替え、今では25人中15人がトランプを支持しているので、政権は安定している。

安倍政権については、参議院のドン・青木氏の言うルール、内閣支持率プラス自民党支持率が50%以下ならレッドカード、70%以下ならイエローカードという基準によれば、安倍内閣はなお70%を超えており、また、8月までに北朝鮮

から拉致被害者を取り戻せば、秋の総裁選挙でも安泰である。

今回のトランプ大統領の高関税政策は、中国が上海原油の先物市場をドル建てだったのを元建てにしたことに激怒したのが原因だが、現時点で中国はアメリカに経済的に対抗できないので、中国はいずれ降りるだろう。日本にも鉄鋼やアルミで高関税を課すと言っているが、日本の鉄鋼やアルミは代用できない高品質なので心配ない。

アメリカは以前にも貿易戦争を行ったことがある。20,000品目以上の輸入品に記録的に高い関税をかけた。その結果、アメリカの輸出入額は半分以下に落ち込み、1929年にはじまった世界大恐慌を、増幅されたと言われている。これに比べると、今回の米中貿易戦争による影響は、意外と少ない。2~3%にとどまるのではないかとされている。



加瀬みき先生

アメリカン・エンタープライズ政策研究所
客員研究員

アメリカ国内では、年々、白人の人口が減ってきて、その人口が過半数を割る日も近い。また、今では教育程度が低く貧困な白人労働者も多く、アメリカに不満と混乱が起こっている。そうした階層がトランプ氏を支持している。そこで、トランプ氏は、外国からの鉄鋼やアルミニウムに高い関税をかけ、アメリカの炭鉱や製鉄業を復興して白人労働者に職を与え、また、自分の支持者である福音派キリスト教徒のため米大使館をエルサレ

ムへ移した。

また、とにかくオバマがやったことを否定する。オバマが進めたイラン核合意やTPPを破棄し、パリ協定からは離脱した。中小銀行に対して、オバマが行ったストレステストの要件を緩和し、テストを行わなければならない金融機関を大幅に減らした。この結果、貸し倒れのリスクは増えている。

大企業を引き付けるために行ったのが法人の大幅減税だ。このままでは、共和党支持をやめる、というところまでできていたと言われる。

トランプ大統領の周りは、いまやトランプの言う通りに動く人間ばかりだ。もの言うティラーソン国務長官をマイク・ポンペオに代えた。ポンペオは、トランプ受けする発言を続けている人物である。FRBの後任議長には、トランプ支持者であるジェローム・パウエルをあてた。国家安全保障担当の大統領補佐官は、ジョン・ボルトンへ。彼は、トランプの好きなFOXのコメンテーターだ。



小谷 誠先生

東京電機大学名誉教授・
生体電磁学の権威、東京
電機大学元学長

「健康寿命」とは、日常的・継続的な医療・介護に依存せずに、自分の心身で生命を維持し、自立した生活ができる生存期間をいうと定義。また、「老化」とは、時間経過に伴って起こる臓器の縮小、組織の衰え、組織成分の変化の過程であり、特に、加齢に伴う臓器の重量低下のうち、注目すべきは、免疫機能を司る胸腺の急激な低下である。

私は、米国マサチューセッツ工科大学で、人体から発生する微弱な磁気を計測して、脳、心臓、肺の

病気診断を行う研究を行った。心電図は、心臓の磁界を測定するものだし、脳波は、脳の磁界を測定するものである。

人間の脳は、胎児の時から発育し、小中学時代は1日約200万個の割合で発達し、20歳過ぎに完成する。そして、40歳頃から減少し初め、60歳を過ぎると1日約30万個の割合で死滅するのが一般である。また、使われない脳細胞は育たないが、反面、脳細胞は使えば使うほど増殖する。人間にとって特に大切なのは、額のすぐ後ろにある「前頭前野」の脳細胞である。ここが、思考を司る脳の司令塔なので、ここを鍛えれば、仕事に対する意欲も増し、決断力や実行力が生じ、認知症になりにくく、何歳になっても、社会で活躍することができる。もし、老年期で気力を失っている方は、毎日5分ほど音読をする。毎日10分程度簡単な計算をすると脳が回復する。



川埜 周先生

外務省総合外交政策局・
政策企画室長

膨大な『外交青書』をさらに、カラフルな写真・地図・統計で編集した『国際情勢と日本外交』と題する資料を配付し、簡にして要を得た実に見事な御解説がありました。

その要点を記すと、まず、一般的国際情勢として、ロシアのクリミア半島占拠や中国の東・南シナ海島嶼の占拠基地化など、軍事力を背景とする現状変更が続く一方、これまでのグローバルな自由貿易への反動として保護主義が急速に台頭し、国際秩序はな

お大きな挑戦を受けている。日本は、各国との連携を図りながら、国際社会の平和と安定のために、従来以上にその中で、大きな責任と役割を果たさなければならないとし、安倍晋三総理、そして外務大臣のこれまでの外国訪問の実績を挙げ、今後は、それをさらに推進するべく、

(1)日米同盟の強化及び友好国とのネットワーク化の推進

(2) 近隣諸国との関係強化

(3) 経済外交の推進

(4) 地球規模課題への対応

(5) 中東の平和と安定への貢献

(6) 自由で開かれたインド太平洋構想の推進

があるとして、その上に立っての各国、すなわち、アメリカ、中国、韓国、北朝鮮、ロシア、とどう外交を展開して行くか、を個別に解説された。



茨木 秀行先生

内閣府参事官・
経済財政分析総括担当官

経済の回復期間の最高は、小泉政権のとき、2002年～2008年の73か月であった。いま現在も経済回復期であり、このままいけば今年の12月で、その73か月に並ぶ。それほど経済は好調である。

近年の統計数字を見ると、雇用者の所得も増加し、就業者数も増加している。個人消費も、品目には変化があるが、通信費や外食費への消費が増え、全体的にサービスへの消費が増加している。

外国人旅行者も大幅に増加している。特に北海道、南関東、近畿、九州、沖縄での伸びが顕著であり、これが経済に好影響をもたらしている。ただ、米中の貿易戦争には留意が必要だ。

そして、茨木秀行経済財政分析総括担当官のお話で感銘したのは、茨木秀行参事官さんが、そうした現状分析だけではなく、世界経済は、狩猟～農業～工業～情報と社会進化してきたが、日本経済をさらに発展させるためには、新しい構想、例えば、ITからAI（人工知能）への人材育成、イノベーション（技術革新）の一層の導入、それら育成のための自己啓発、学校教育の見直し・学び直し、そしてまた、世界に遅れをとっている電子決済の活用等々が必要だ、とこれからの経済改革のあり方に触れられた点で、大層勉強になり、感銘しました。



品川高浩先生

防衛省大臣官房企画評価
課長

本年の白書の巻頭特集として、(1)防ぐ（弾道ミサイル防衛）、(2)務める（24時間365日の任務）、(3)備える（進化する防衛力）の3点に関し、それぞれの説明があった。

その具体的内容を、すべて記すわけに行かないが、その(1)では、外部から弾道ミサイルが発射されると、その初期段階で探知・識別・追尾し、情報を一元処理し、上層ではイージス艦、下層ではPAC-3（ペトリオット）で迎撃、さらに近

く導入されるイージスアショアで対処する体制である。(2)では、自衛隊の24時間365日態勢の任務の紹介とともに、北朝鮮が海上で船舶間で物資を積替えする「瀬取り」の警戒監視を強化する。(3)では、最新鋭ステルス戦闘機F-35A、新型早期警戒機、オスプレイ導入等々。

そのあと、「我が国を取り巻く安全保障環境」と題し、北朝鮮、中国、ロシアの情勢等についても詳細な解説があった。御解説は、白書や資料の中のカラー写真・図表・統計を指摘しての分かりやすい御解説で感銘し、大層勉強になった。その後、意見交換に入ったが、懇切に応答をくださった。当方からも、技術の向上、情報流出の防護、戦略の研究等々、御進言申し上げた。



橋本久義先生

政策研究大学院大学名誉
教授、元通商産業省・工業
技術院総括研究官

今年に入ってからでもSUBARUのデータ書き換え・検査不正、スルガ銀行の不正融資、KYBの免震装置データ改ざんなどが起きている。会見には必ずトップがでてきて、頭を下げている。こういう映像を頻繁に見ていると、日本の企業は大丈夫か？と心配になってくるのでは？

たとえば、2017年に起きた神戸製鋼所の品質管理の件についていうと、品質検査は30数項目あり、問題があるのはそのうちの4~5箇所だ

った。それも品質からいうと97~98%という数値で、昔ならお客と話をして「それくらいなら問題ないでしょう」となるレベルである。

直近のKYBの免震装置の場合は、「これくらいなら安全だろう」というレベルの2倍の安全基準をそもそも設けており、それに対して98%なので、安全性に問題はない。

こうした詳しい内容をマスコミは伝えないし、企業側もとりたてて発表したりしない。「言い訳すると、余計に叩かれてしまうので、謝ってしまった方が早く騒ぎが治まるだろう」という計算があるからなのだ。

こうしたニュースは海外ではほとんど報道されていないし、内容を知れば、「何で、これくらいのこと、トップが出て謝ってるの？」という感覚。日本製品の信頼性の高さがむしろ印象付けられていると考えていい。だから、日本の信頼が失われる、という心配は無用である。



井沢元彦先生

作家、歴史研究家、作品多数、連続執筆の『逆説の日本史』は特に有名

日本人は、**ケガレ**、**言霊**、**怨霊**という3つに支配されている。

ケガレと汚れは違う。汚れは、目に見えるもの、測定できるもの。しかし、**ケガレ**は目に見えないものなのだ。たとえば死んだ人の茶碗をつかうのは、嫌だ、という感覚がある。それは、**ケガレ**があると感じるからだ。

平安時代、皇室や公家たちは、**ケガレ**のことを嫌がった。だから、国を守る「兵部省」や、治安

を守る「刑部省」の長官になりたがらなかった。もめごとが起きると、武士に依頼して、ことを収めるようになっていき、武士が力をもつようになった。頼朝が天下を獲れたのは、地頭の任命権を後白河上皇から授かったため。これで武士がついてきた。

言霊というのは、言葉に宿ると信じられている霊的な力のこと。たとえば、あるイベントの当日、「雨になるかも」と誰かがいい、ほんとうに雨が降ると、その人のせいになる。第二次世界大戦前、「日本が負ける」というようなことをいう人は、出世できなかった。結果、誰も、ネガティブなことが言えなくなり、戦争に突き進むことになってしまった。

怨霊とは、恨みをいだいて人にたたりを及ぼす霊のこと。崇徳上皇や菅原道真の怨霊は有名だが、戦争で亡くなった英霊にもあてはまる。「英霊に申し訳ないから、撤兵できない」という考え方は、怨霊信仰なのだ。

「時代を刷新する会」設立の趣旨と活動概要

——何事も、時代を先取りして取り組んでゆこうとの趣旨・活動——

本会は、同じく岸信介元総理を会長とし、昭和56年10月、政治団体として設立された。第2代会長は木村睦男元参議院議長、第3代会長は櫻内義雄元衆議院議長、第4代として塩川正十郎元財務大臣、第5代会長代行に江口一雄衆議院議員、現在は岸信夫衆議院議員が会長代行を務めている。当団体の設立趣旨は、「民主主義・自由主義体制を尊重しつつ、国の内外に山積する基本的課題を根本から検討しなおすことにより、時代を刷新し精神を作興して、国家・国民に新しい活力を生み出す」ことを目的とする。主として心ある学者・企業人・技術者など実務的専門家の多数をもって構成される。毎月の月例講話会では、時宜に応じた講話を聞き、知識や親交を深め、また、内部に下記の専門部会・委員会があって検討した結果、政府や社会へ発表・普及すべきだと判断した事項については、要請書を起案・作成して政府等へ提出しており、その本数はこれまでに137本に達している。部会・委員会については、法人格は異なるが、（公財）協和協会と協同して行う場合もある。

時代を刷新する会

〒104-0028 東京都中央区八重洲2-6-16 北村ビル3階

☎ 03-3272-4320 FAX 03-3507-8587

監修 清原淳平専務理事

発行 平成31年1月1日

<http://www.jidaisassin.jp/>